

KVK デッキ型定量止水付サーモスタート式混合栓 施工説明書

KM298(Z)〈各仕様共通〉

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはならない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

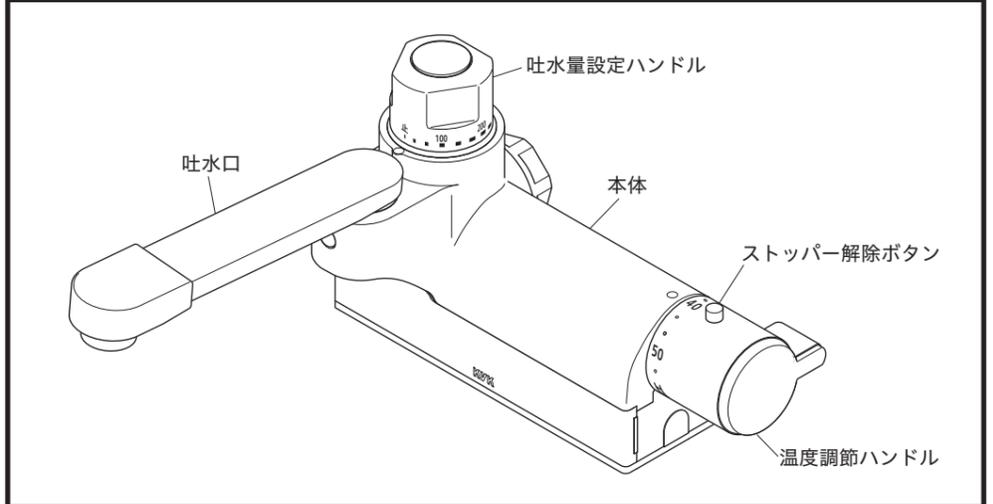
<p>湯水を逆に配管しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。</p>	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>加工及び接合等の改造はしないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>給湯に蒸気を使用しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>配管などの解氷のため、解氷機を使用する場合は、水栓には絶対に通電しないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>通電すると水栓が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>	<p>寒冷地仕様の場合 水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>水抜き栓をいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
<p>スチームルーム及び乾燥室にご使用の際は相談ください。</p> <p> 注意</p> <p>器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。</p>	<p>温度調節ハンドルの目盛が、吐水温度と合っているか確認してください。</p> <p> 注意</p> <p>取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならず、やけどをするおそれがあります。</p>	<p>ストレーナの清掃は止水栓または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。</p> <p> 注意</p> <p>高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>

<p>注意</p> <p> 禁止</p> <p>器具に強い力や衝撃を与えないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>めっき部品はぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。</p> <p> 禁止</p> <p>めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。</p>	<p> 注意</p> <p>凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、水栓本体や配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。</p> <p> 注意</p> <p>水抜きしないと凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。</p>
--	---

取り付け前に

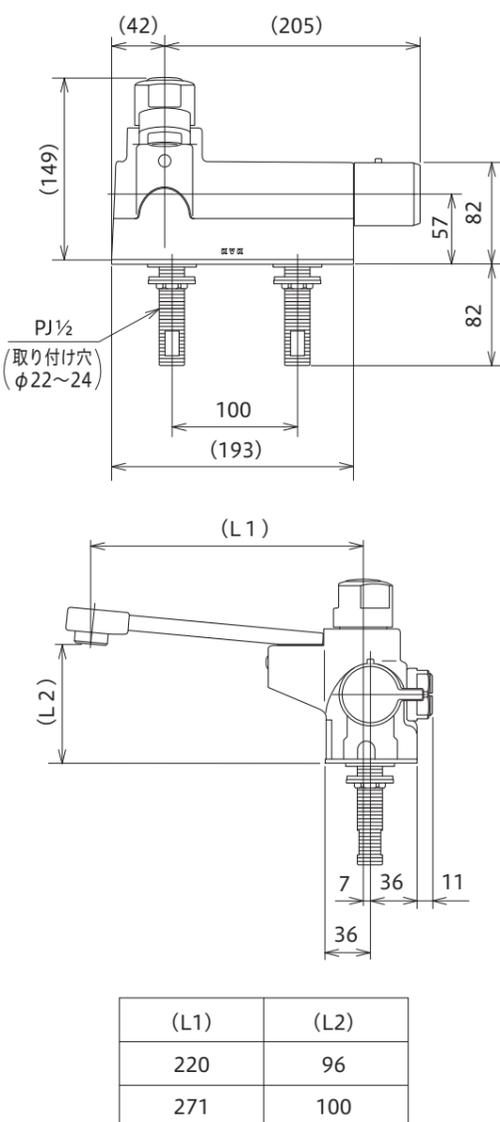
- ① 使用水圧(A=(給湯器の最低作動水圧)+(配管圧力損失))
 - (1) 瞬間給湯器との組み合わせ(設定条件 水温:25℃ 給湯器温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開) (比例制御式)最低必要水圧:A+50.0kPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
 - (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ (給湯・給水圧力)最低必要水圧:A+50.0kPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
- ② 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ③ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ④ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑤ 給湯器の給湯温度は、50℃～60℃に設定することをおすすめします。
- ⑥ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑦ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑧ 本製品は、改造(加工および接合等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑨ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け完成図と各部の名称

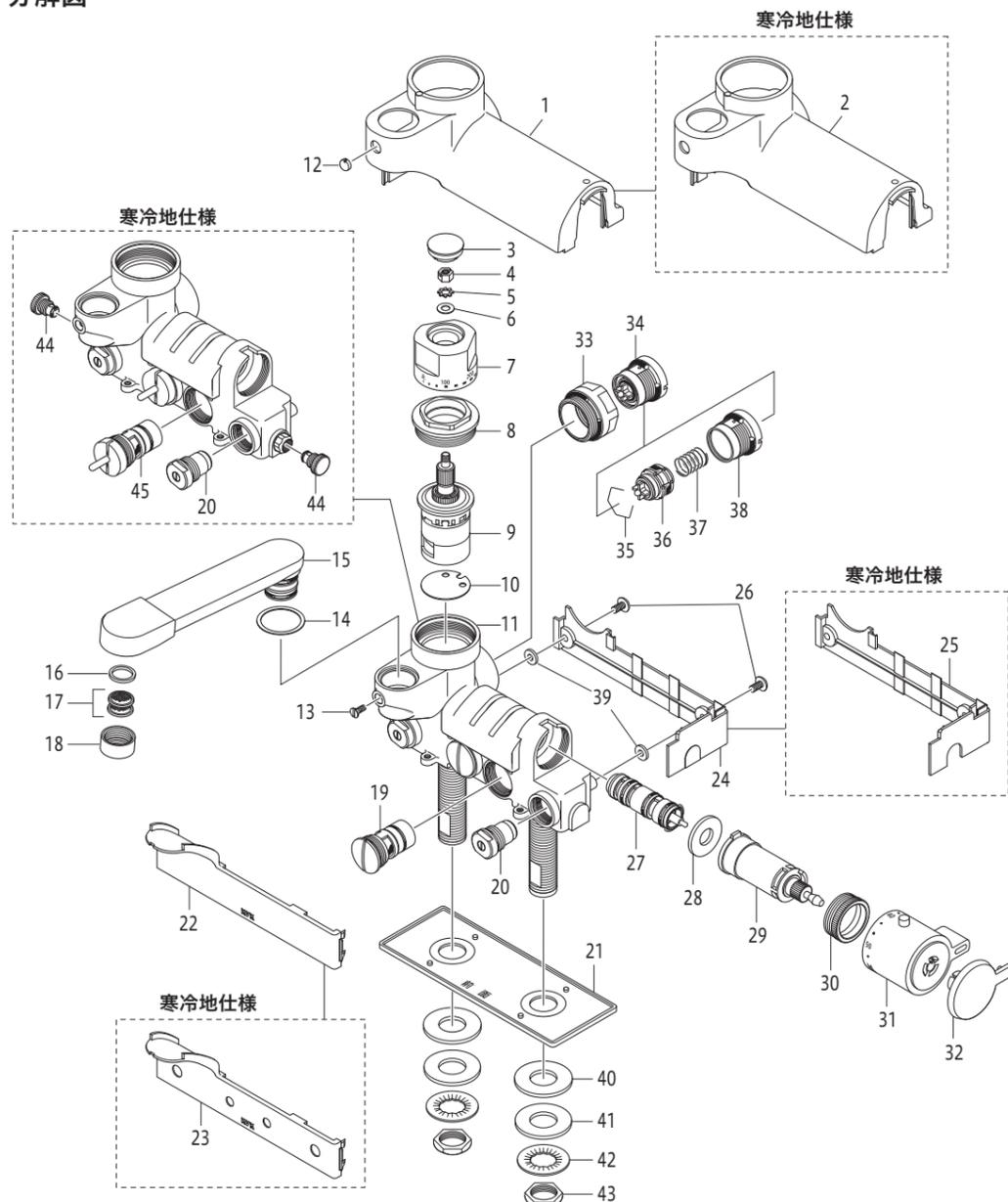


寸法図 / 分解図 この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

寸法図
各部寸法は仕様により異なる場合があります。



分解図



1	カバーA (一般地仕様)
2	カバーA (寒冷地仕様)
3	キャップ
4	ナット
5	歯付座金
6	平座金
7	吐水量設定ハンドル
8	固定ナット
9	定量カートリッジ
10	パッキン
11	本体
12	キャップ
13	ビス
14	スリップ板
15	吐水パイプ
16	パッキン
17	ストレーナ
18	整流器キャップ
19	逆止弁付ストレーナ (一般地仕様)
20	止水栓
21	台座プレート
22	メンテナンスカバー (一般地仕様)
23	メンテナンスカバー (寒冷地仕様)
24	カバーB (一般地仕様)
25	カバーB (寒冷地仕様)
26	ビス
27	サーモスタートカートリッジ
28	座金
29	温調ボンネット
30	温調固定ナット
31	温度調節ハンドル
32	キャップ
33	止水弁ジョイント
34	止水弁ユニット
35	リング
36	定量止水弁
37	スプリング
38	キャップ
39	座金
40	シートパッキン
41	輪パッキン
42	菊座
43	締付ナット
44	水抜き栓 (寒冷地仕様)
45	逆止弁付ストレーナ (寒冷地仕様)

取り付け手順

1 給水管内の清掃
配管工事後、必ず給湯・給水管内のゴミを取り除いてください。

2 本体の取り付け
下図の順に本体を固定します。
【お願い】保守点検のため本体取り付け穴から壁面まで68mm以上を確保してください。
【△注意】
締付ナットの締め付けは、専用工具G4(別売)で行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

専用工具 G4(別売)

取り付け穴 (φ22~24)

100

68以上

輪パッキン

菊座

締付ナット

3 本体と配管の接続
本体と配管を接続します。

4 ステッカーの貼り付け
使用方法ステッカーを見やすい位置に貼り付けてください。

5 ページ

取り付け後の点検と清掃1

通水確認
【△注意】水栓取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部および水栓からの水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ストレーナ清掃のお願い
本体と吐水口のストレーナにゴミ等が詰りますと、吐水量が減ったり、希望する湯温にならない場合があったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。
➡ 取扱説明書「日常のお手入れ・保守」参照

サーモスタットカートリッジの清掃方法
サーモスタットカートリッジにゴミ、水あか、汚れ等が付着しますと、吐水量が減ったり、温度調節がうまくできなくなったりしますので清掃してください。
【△注意】サーモスタットカートリッジの清掃は、止水栓または元栓で必ず湯水を止めてから行ってください。サーモスタットカートリッジをいきなりはずしますと、高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

- ① 一般地仕様は正面下側のメンテナンスカバーをはずします。(切欠部にマイナスドライバーなどを差し込んで引っ掛けてはずしてください。)
- ② 止水栓[2か所]をしっかり締めて、湯水が出ないことを必ず確認してください。
- ③ キャップ、温度調節ハンドルを取りはずします。
- ④ 吐水口の下のカップをはずし、ビスをゆるめ、吐水口を取りはずします。
- ⑤ カバーAをはずしはずします。
- ⑥ 温調固定ナットをはずし、温調ボンネット、座金を取りはずします。
- ⑦ サーモスタットカートリッジの引き輪を起こして引き抜きます。
- ⑧ サーモスタットカートリッジをブラシで水洗いします。

④ はずす

⑤ はずす

④ ゆるめる

④ はずす

⑦ 引き抜く

引き輪

⑥ はずす

① はずす

② ゆるめる

⑥ はずす

③ はずす

⑧ 清掃

歯ブラシなど

サーモスタットカートリッジ

温調固定ナット

手ではずれない場合は、プライヤー等ではずしてください

清掃後は上記の逆の順に組み立ててください。
【お願い】・組み立て時、温調固定ナットはプライヤー等で確実に締め付けてください。
・取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。

6 ページ

取り付け後の点検と清掃2

定量止水弁の清掃方法
定量止水弁が詰りますと、きちんと定量できなくなったり、湯水が止まらなくなりますので清掃してください。
➡ 取扱説明書「日常お手入れ・保守」参照

温度調節ハンドルの設定方法
工場出荷時に温度調節をしています。取付現場の圧力状況により目盛通りの湯温にならない場合があります。温度調節ハンドルの目盛がズレている場合、温度調節ハンドルをはめ直してください。
【はじめに確かめてください】
・止水弁を全開にしているか確かめてください。
・ストレーナにゴミづまりがないか確かめてください。
・給湯温度50℃~60℃の湯が給湯できているか確かめてください。

- ① 全開吐水で目盛に関係なく40℃のお湯が出る所まで、温度調節ハンドルを回します。
- ② キャップをはずし、温度調節ハンドルを回転させないように取りはずします。
- ③ ハンドルの「40」の目盛を表示ポイントに合わせます。
- ④ キャップにて固定します。

【お願い】取り付け後は、温度調節ハンドルの目盛と吐水温度が合っていることを確認してからご使用ください。
※ 目盛は、温度表示ではありません。目盛は、温度調節の目安としてください。

40℃

温度調節ハンドル

②-2 回さないようにはずす

赤ポイント

③ 合わせはめる

キャップ

②-1 はずす

④ 固定

流量の調節方法
流量の調節は右記の方法で行ってください。
一般地仕様は正面下側のメンテナンスカバーをはずしてから調節します。(切欠部にマイナスドライバーなどを差し込んで引っ掛けてはずしてください。)

湯側止水栓

あける

しめる

あける

しめる

水側止水栓

切欠部

メンテナンスカバー

7 ページ

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度確かめてください。

現象	お調べいただくところ	処置	参照ページ及び項目
湯水が止まらない	吐水量設定ハンドルは止水位置に合っていますか	吐水量設定ハンドルを止水位置に合わせる	取扱説明書4ページ「吐水量設定ハンドルの使用方法」
定量止水水がでない	定量止水弁にゴミ等が詰まっていますか	定量止水弁を清掃する	取扱説明書5ページ「定量止水弁の清掃方法」
吐水量が少ない	止水栓は十分に開いていますか	止水栓を開ける	7ページ「流量の調節方法」
	ストレーナにゴミ等が詰まっていますか	ストレーナを清掃する	取扱説明書4ページ「ストレーナの清掃方法」
	定量止水弁にゴミ等が詰まっていますか	定量止水弁を清掃する	取扱説明書6ページ「定量止水弁の清掃方法」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切替式的ものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
高温しか出ない	水側止水栓は十分に開いていますか	止水栓を開ける	7ページ「流量の調節方法」
	湯側止水栓は十分に開いていますか	止水栓を開ける	7ページ「流量の調節方法」
低温しか出ない	給湯器の給湯温度を50℃~60℃に上げる	—	—
	湯側・水側止水栓は十分に開いていますか	止水栓で流量を調節する	7ページ「流量の調節方法」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
温度調節がうまくできない	ストレーナにゴミ等が詰まっていますか	ストレーナを清掃する	取扱説明書4ページ「ストレーナの清掃方法」
	温度調節ハンドルの設定は合っていますか	温度調節ハンドルの設定を確認する	7ページ「温度調節ハンドルの設定方法」
吐水が飛び散る	ストレーナにゴミ等が詰まっていますか	ストレーナを清掃する	取扱説明書4ページ「ストレーナの清掃方法」

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]
【△注意】修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

8 ページ